

平成 30 年度第 1 回農業大学校外部評価委員会

議事録

I 日時 平成 30 年 5 月 29 日（火） 14：00～16：00

II 場所 大分県立農業大学校 会議室

III 参加者 外部評価委員

教育関係者 大分県高等学校教育研究会農業部会 会長

(大分東高等学校長)

甲斐 良治 氏

生産者 大分県指導農業士会 会長

藤野 渉 氏

〃 大分県農業法人協会 会長

増田 徳義 氏 (欠席)

〃 地元女性農業者

古庄 京子 氏

卒業生 大分県立農業大学校同窓会 副会長

湯浅 正徳 氏

農業団体 大分県農業協同組合常務 (営農担当)

三浦 堅二 氏

行政 豊後大野市 農業振興課長

赤峯 浩 氏

〃 大分県中部振興局 生産流通部長

三浦 敏郎 氏

農業大学校

校長、副校長、次長兼総務学生課長、農学部長兼教務課長、研修部長、教務課担当

IV 次第

1 開会 (進行：松原次長)

2 委員紹介

3 校長あいさつ

本校の学校評価制度は平成 23 年度より実施され、今年で 8 年目となりますが、3 本の大きな運営方針があり継続して取り組む中。年々、改善・強化を重ねてきました。

特に出口、進路の問題について学生全員の進路を保障していくことが、新入生に対しても安心感を与えることになるので、出口対策や質の高い教育に力を入れて、学生の確保にあたりたいと思っています。

おかげさまで在校生は 109 名で、平成 14 年から一学年 60 名定員に変わって最も多い学生数となっています。また、今春の卒業生 45 名は 100%進路が決まり、その内、71%が自営や法人就職で就農しています。

今後とも魅力ある大学校にすべく外部評価委員会の皆様にはご支援・ご指導いただきたいと思います。短い時間ではございますが、ご助言をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

4 本校職員紹介

5 大分県立農業大学校評価制度について

副校長より資料 P 2～P 6 を説明

6 議事 (議長：甲斐委員長)

(1) 報告事項

①平成 29 年度の重点目標に対する取り組み結果

運営方針 1「活気あふれる学園づくり」、運営方針 2「質の高い教育の提供」、運営、方針 3「新規就農者の確保」の取り組み結果について校長より説明。

②平成 30 年度 大分県立農業大学校の概要

「学校運営体制」、「農学部学生の状況」、「研修部研修生の状況」について校長より説明。

(2) 審議事項

平成 30 年度 運営方針を踏まえた数値目標と主な対策

運営方針 1 「活気あふれる学園づくり」、運営方針 2 「質の高い教育の提供」、運営方針 3 「農業の担い手の確保」の方針に沿って、今年度の具体的な取組と数値目標等について校長・副校長より説明。

《質疑・応答》

運営方針 1 について

(古庄委員)

昨年度は農大見学に 2 校しか来ていない。なぜ地元の三重総合高校は来ていなかったのか。今年は予定に入っているのか。

(副校長)

昨年の 2 校は高校で、秋口に主に PTA 役員に対して子供の進路になりうるところをリストアップして見学に出こととしていた。そのコースになんとか本校を組み入れてもらった。

毎年同じ人が参加するとなると同じ場所にはあまり来ない。三重総合は地元ゆえに来なかったと思われる。しかし、今年度は県教育委員会が別途、農大を見学する事業を企画しているので農大に目を留めていただけていると思う。

運営方針 2 について

(甲斐委員)

日本農業技術検定について学習の成果を測る目的で導入している。高校は 3 級取得を目指している。取得する上で農大と連携をしていきたいと思う。

GAP については今年、高校教員に指導員の資格をとらせ、全ての農業系高校で GAP 取得を目指す。課題は更新料であるが、高校は国が示した学習内容を行う。その中で、GAP が大きく謳われている。JAP 取得には高校現場は手探りのところもあるので農大と連携していきたい。職員の派遣についてもご協力いただきたい。

(副校長)

教育機関として高校が全国レベルで JGAP 取得に動いている。そうすると GGAP を学ぶ場がない。農大で GGAP を取得すれば、世界の視点を学ぶ場ができる。高校生が教育上の階段を上げるために、本校としてその土壌を準備する必要があるという判断で導入に向かっているという理解でお願いしたい。

(藤野委員)

農業農村のリーダーはいらない。リーダーになることができる素質を持った学生を育成してほしい。卒業して直ぐにリーダーにはなれない。それより、言われたことを自分で認識して噛み砕いて、どのようにしたら良いか考えて、人に伝える力を備えた学生が即戦力になる。

また、大規模化の現状の中で農業機械が年々、新しく変わってきている。大型機械よりドローンといったものに触れさせることはできないか。大規模化に応じて新しい機械操作を外部に頼むのではなく自分達の会社でできないとコストが下がらない。従ってそういった部分も農大で取り扱うことができないか。

(校長)

リーダーの輩出ではなく、将来的にリーダーになりうる人材を育てていきたい。学校の中で資質を持たせ、現場で働きながらリーダーとなりうる人材を育てて行きたい。

機械操作の件については、農大の学生には先端技術・高度な知識にはできる限り触れさせていきたいし重要と思っている。限られた予算の中であるので即購入はなかなかできないが過去、ドローンの実演を見せたことはあるのでそういった形から触れさせていきたい。将来の農業の姿を見据えていかなければいけないと思っている。

(農学部長)

昨年国の研修があり本校職員も参加している。将来的に指導できるようにしていきたい。

(藤野委員)

そういったことがあると学生の進路先も変わってくると考える。

運営方針 3 について

質疑無し

運営方針 1～3 について

質疑無し

(甲斐委員長)

運営方針 2 の 2 の文言は検討していただく。

それ以外の本年度の重点目標について承認してよろしいでしょうか

(各委員)

異議なし

(3) その他

添付資料の学校年間行事予定表、学校案内、みどりの風、農大 NOW、平成 31 年度学生募集、オープンキャンパスの内容について副校長より説明。